

1. 診療科の特徴

- 京都市立病院のER 部門での救急患者の診療を担当している。平成21年度の救急総件数は2万377件、救急車受け入れ台数は3,843件緊急入院数は3,580件。多彩な急性期疾患を経験することが可能である。平成25年度からは病院新築に伴い、救急部門が4倍に拡張

される予定であり、救命センターに匹敵する救急診療のレベルをめざしている。

- 災害拠点病院として日本DMATに参加している
- 救急関連コースの開催を行っている。

2. 研修指導体制

● 森 一樹 (部長)

専門領域 専門救急医学

専門資格 日本内科学会認定医, 日本救急医学会救急科専門医



● 前田敏樹 (医長)

専門領域 一般外科・専門救急医学

専門資格 日本外科学会専門医, 日本救急医学会専門医



● 林 真也 (医員) **専門領域** 救急医学

3. 施設認定資格及び研修終了後に取得できる認定資格など

日本救急医学会専門医指定施設

4. 研修の一般的目標

- ER医として、重症度、年齢、性別、罹患臓器にかかわらずあらゆる症候、疾患に対して適切な初期対応ができる。
- 集中治療室において重症傷病者に対する集中治療が実

施できる。

- 集団災害発生時に、医療チームのリーダーとして適切な行動ができる
- 救急科専門医取得をめざす。

5. 具体的な研修到達目標

- 当科では、4年間の研修期間を通じてER初期診療、集中治療、災害医療の習得を目標にしている。ER、集中治療室での研修の他ローテーション研修をおこなう。
 - ▶ 必須ローテーション：循環器科、脳外科、消化器外科、麻酔科、整形外科、小児科、放射線科
 - ▶ 希望ローテーション

- 上記ローテーションの他、subspecialityを身に着きたい専攻医については柔軟に対応する。
- 外傷救急については他施設へのローテーションを予定している

6. 診療実績、治験成績、疾患別症例数など

「断らない救急」をめざしています。

平成22年度の総受診者数は20,377人、救急室からの入院は3,580人、救急車搬入は3,095件でした。

救急車受入台数は、21年度の3,095台から22年度は3,843台と急激な増加を示しました。

■入院患者数

20年度	3,210人
21年度	3,470人
22年度	3,580人

■救急車搬入

20年度	2,786台
21年度	3,095台
22年度	3,843台

7. 週間予定

	月	火	水	木	金
午前	集中治療室／ER	集中治療室／ER	集中治療室／ER	集中治療室／ER	モーニングカンファレンス 集中治療室／ER
午後	集中治療室／ER ERカンファ	集中治療室／ER ERカンファ 抄読会	集中治療室／ER ERカンファ	集中治療室／ER ERカンファ	集中治療室／ER ERカンファ

8. 論文・学会活動

■救急に関する研修会等

心肺蘇生講習会	第3金曜日 夕6時から7時30分	一次救命処置（BLS）に関する実技指導。医師・看護師等の医療従事者対象
モーニングカンファレンス	毎週金曜日 朝8時から8時20分	各科のプライマリケアに関する講義
みぶ大文字コース	年2回	日本救急医学会認定ICLSコース。京都民医連中央病院、京都南病院との共催。
洛西救急カンファレンス	毎月	近隣の病院との救急症例検討会。京大初期診療・救急部のご指導をいただいています。京都民医連中央病院、京都南病院と持ち回りで開催。
みぶ 救命救急セミナー	年1回	救急・集中治療に関する研究発表会
京都みぶメディカルラリー	年1回	救急・災害医療に競技大会